

野鳥グループ活動報告

両角英晴*

1、はじめに

茅野市は、赤岳山頂の2.899mから平坦部の762mまで標高差が2.137mもあるため、高さによる気象のちがいが植物の垂直分布にはっきりあらわれている。

2.500m以上の山頂部は山頂岩場（高山帯）で多くの高山植物が見られる。それより下方1.500mあたりまでは針葉樹林帯（亜高山帯）で常緑針葉樹が主でハクサンシャクナゲなど亜高山帯の植物が生育している。1.500m以下は人里に近い林（低山帯）や山地草原で、山地には雑木林やカラマツの植林が多く、1.200m以下には、田畑や集落が発達し、植物の種類も分布も複雑である。人里（市街地）には上川、宮川などの河川周辺、街中・集落、農耕地などの環境がある。

この恵まれた自然環境の中に、多くの野鳥が居ます、しかしながら最近では飛来、生息する野鳥が種、固体数ともに減少が見られます。どんな野鳥が、どの時期に、どんな生活を行っているのか、調査と観察会を通して数値化を行った。

調査データの解析は、数年後の同一調査との比較により、価値ある内容となる。

2、第1期3年間の活動

平成25年4月21日 プレゼンテーションで野鳥グループの活動予定などを説明し、希望者を募って野鳥に興味の有る方々に参加して頂き活動を重ねた。

平成25年度

- 講演会 4月28日 中村浩志氏（信州大学教育学部名誉教授）
- 写真展 5月03日 ギャラリートーク 吉野俊幸氏（日本写真協会 会員）
- 調査 9月23日 タカの渡り確認調査 北八ヶ岳茶白山山頂
5月18日、7月7日、11月17日、1月12日
スポットセンサス 博物館周辺 4回
- 座学 10月13日 長野県環境保全研究所出前講座 堀田昌伸氏
- 探鳥会 4月14日 運動公園
5月03日 尖石縄文公園、竜神池周辺
12月22日 神長官守矢史料館周辺
2月02日 諏訪湖、上川周辺
- 観察会 8月03日 野鳥の会諏訪ツバメのねぐら観察会に参加、学習

平成26年度

- 調査 5月06日、6月7日、11月24日、1月10日
スポットセンサス 尖石史跡公園、竜神池周辺 4回
5月28日～6月8日 オオヨシキリ生息調査 市内全域
6月01日 ラインセンサス、ミニ観察会 市民の森吉田山
7月21日 ラインセンサス、ミニ観察会 大河原峠、双子池
9月23日 タカの渡り確認調査 北八ヶ岳茶白山山頂
- 座学 10月26日 「館内資料で知ろう！茅野市の自然、野鳥」
館内展示（ジオラマ）と収蔵庫の野鳥剥製での学習会
- 探鳥会 4月13日 運動公園 市街地公園春の探鳥会
5月03日 尖石縄文公園、竜神池周辺 さえずりを聴こう探鳥会

* 日本野鳥の会 諏訪

12月22日 神長官守矢史料館周辺 里山、農耕地で冬の探鳥会
2月02日 諏訪湖、上川周辺 水辺の冬の探鳥会
観察会 8月01日 ツバメのねぐら観察会 上川新六斗橋下流右岸土手

平成 27 年度

調査 5月06日、6月6日、11月23日、1月11日
スポットセンサス 神長官守矢史料館周辺 4回
5月23日 ラインセンサス、ミニ観察会 市民の森吉田山
7月20日 ラインセンサス、ミニ観察会 大河原峠、双子池
9月22日 タカの渡り確認調査 北八ヶ岳茶臼山山頂
座学 10月12日 「館内資料で知ろう！茅野市の自然、野鳥」
館内展示（ジオラマ）と収蔵庫の野鳥剥製での学習会
探鳥会 4月12日 運動公園 市街地公園春の探鳥会
5月03日 尖石縄文公園、竜神池周辺 さえずりを聴こう探鳥会
12月20日 神長官守矢史料館周辺 里山、農耕地で冬の探鳥会
2月20日 諏訪湖、上川周辺 水辺の冬の探鳥会
観察会 8月01日 ツバメのねぐら観察会 上川新六斗橋下流右岸土手

◎ 調査

・スポットセンサス

環境省自然環境局生物多様性センター・(財)日本野鳥の会・NPO法人バードリサーチ のモニタリングサイト
1000 鳥類調査の方法を利用して各年1箇所設定し年間4回調査を行った。

鳥の種と数のしらべかた

平成 25 年度は、八ヶ岳総合博物館周辺の鳥類生息調査を行った。

博物館から上川、柳川の合流まで1kmのコースを決め、5つの定点（A～Eをおよそ250mおき）を設定する。

平成 26 年度は、尖石縄文考古館周辺縄文公園から竜神池周辺の鳥類生息調査を行った。

尖石縄文公園内復元住居前から滝の湯堰沿い、竜神池まで1kmのコースを決め、5つの定点（A～Eをおよそ250mおき）を設定する。

平成 27 年度は、神長官守矢史料館周辺の鳥類生息調査を行った。

前宮公園から諏訪市武居城址近くの林道まで1kmのコースを決め、5つの定点（A～Eをおよそ250mおき）を設定する。

・1日だけの調査では、渡りの時期の違いによって記録できない種が出てくるため、調査を2日に分けて行う。

繁殖期・・・さえずりがさかんな繁殖の前期に1日最盛期1日の計2日

越冬期・・・冬鳥が揃ってから1日、2週間以上経ってから1日の計2日

・1日あたり各定点2回調査を行う。

・AよりEまで各定点で10分間の調査を行う。E地点終了後、15分間隔をあけて再びE地点から調査を行う。

・2分ごとに、確認した種、記録方法、個体数を記録する。定点から半径50mの範囲とそれ以遠にわけて記録する。

以上の方法にて3箇所調査した。データの分析は5年後どう変化したかを比較する中で、分析を行います。

添付別表 「鳥の種と数の調査記録用紙」

・ラインセンサス

平成 26,27 年、茅野市民の森吉田山で早朝からと大河原峠～双子山～双子池をめぐるコースでミニ観察会 ラインセンサス調査を行った。

種類数の確認だけでなく、個体数のデータが取れた。

・オオヨシキリの生息調査

市内全域で行った、平成15年茅野市環境にやさしいまちを創る市民の会により「身近な生きもの調べ」より10年が経過しました。八ヶ岳物産総合博物館の市民研究員調査活動の一つとしてオオヨシキリの生息調査を行い、10年後の変化を確認した。

調査は前回と同様に、繁殖時期の後期にさえずっているオスのオオヨシキリを一つの縄張りとしての場所、数の調査を市内各河川、湖沼、水田地帯などを回り実施した。

平成15年には106羽のさえずりが、平成26年には164羽のさえずりを確認した。

「オオヨシキリ地域別生息箇所調査表」は平成26年度紀要第23号に

◎ 観察会開催・参加

ツバメのねぐら観察

ツバメは6月の終わり頃から、巣立った雛や、繁殖を終えた親鳥たちが、毎日上川の河川敷にある、ヨシやオギに集まり夜を過ごす、ねぐらを形成します。8月の初旬がもっとも多く集まる時期になります。

平成25年8月3日 野鳥の会諏訪の観察会に参加した、午後6時40分過ぎ頃から観察地の諏訪インター入口の広瀬橋の上空には、ツバメの群れが飛び始めその数はどんどん増えて行った、7時頃には上空がツバメでいっぱいになり、徐々に橋の上流のヨシ原へ止まり細いヨシにはツバメがいっぱいであった。

平成26年8月1日は上川右岸新六斗橋付近で観察会を開催した。

雲行きが不安の中、大きなムクドリの群れが幾つも上空を通過して行ったり、ゴイサギが鳴きながら何羽も飛んで行くのが見えた。6時45分を過ぎる頃から、ツバメが数十羽の群れで上空や土手沿いのヨシの上を飛び始めた。しかし遠く岡谷の方から雨がこちらに向かって来るのが見え、徐々にポツポツと夕立になってしまった。雷雨の為に、事前に確認した所から、ねぐらが変わった為に前年見たような、乱舞は見えず残念でしたが、ツバメにとって必要な環境を確認できた。

平成27年8月1日は上川右岸新六斗橋、鷹野橋間の通勤バイパス沿いで観察を行った。

午後6時45分を過ぎると、上空や上川の水面上を飛ぶツバメの数が徐々に増えて来て、7時には上空を覆うほどに増え、数を想像できる様な状態では無かった。霧ヶ峰の方から夕立も近づいてくる中、ツバメ、積羅雲、雷光と自然の凄さを感じました河川敷のヨシは強風に大きく揺れ、簡単にツバメにねぐらを提供してくれず観察も夕立がすぐ近くまで来たので、ツバメが止まって休むまでは観察できず終了した。

タカの渡り観察

秋になると東日本で繁殖を終えたタカ類が渡りと呼ばれる越冬地への集団移動を行います、長野県内にも松本市白樺峠など有名な渡りコースがあります。八ヶ岳を越え渡っていく個体も居るとの情報に元、3年間茶白山で渡りの観察を行いました。

・平成25年9月23日 北八ヶ岳茶白山でタカの渡り調査を行った。麦草峠より調査地点の茶白山山頂まで針葉樹林帯をミニ登山、5時間ほど観察したが、確認は出来無かった。合間には縞枯山の様子も学習して総合学習が出来た。雲の晴れ間には蓼科山から横岳、縞枯山がよく見え、南八ヶ岳も少しの時間姿を見せた。当日佐久側は雨だった様でした。

・平成26年9月23日 北八ヶ岳茶白山でタカの渡り調査を市民研究員と一般市民で行った麦草峠より調査地点の茶白山山頂まで針葉樹林帯をミニ登山、5時間ほど観察した。

タカの渡り観察では、サシバ8羽 ノスリ2羽の10羽が確認できた、頭上で旋回上昇して入笠山、守屋山方面を目指して飛翔する固体が見られた、少ないながらも佐久側から八ヶ岳を超え南下するルートが解った。

麦草峠より茶白山往復では、ホシガラス、メボソムシクイ、ルリビタキ、ヒガラがいた。 渡りのタカを加え6種20個体が確認できた。

・平成27年9月22日 天気も良く絶好の鷹の渡り調査日和になった、博物館へ集合し車で移動麦草ヒュッテへ駐車をお願いして、出発準備を済ませいよいよ茶白山へ、移動時にも野鳥や植物観察も行った。

はじめは1時間に1羽程度、午後になっても昨年の数には届きませんでした。13時を過ぎ、残り1時間と話す時、

待っていた様に増えて来て 13 時 30 分には 9 羽のサシバがタカ柱を形成、うれしい出現でした。

終了間際にはハチクマも渡り、サシバ、ハチクマ、ノスリ、オオタカと 4 種 20 羽の渡りが調査できた、タカ類 4 種のほかには 9 種の野鳥も確認した。

3 年間 1 日ずつの観察でしたがタカの渡りルートが少し見えて来ました。

◎ 探鳥会

探鳥会を年間で 4 回計画し、3 年間地元の季節、環境、場所の違いによる野鳥の生態をポイントに行った。この探鳥会は 15 年以上も続けて行っている、市民の皆さんに身近な環境の中で、野鳥を見て知って頂きたいと開催しているが、市民研究員の方もこの事業に携わる事が出来れば良いと思う。

探鳥会 運動公園の渡り前の冬鳥と留鳥、夏鳥

市街地に近い運動公園で探鳥会を行った、移動を前にした冬鳥では、ヒレンジャク・シロハラ・ツグミ・カシラダカ・ベニマシコが、渡って来たばかりの夏鳥はツバメ・コムクドリ・クロツグミが居た年もある、留鳥のシジュウカラ・カワラヒワの数が多かった、ここ数年減少のゴジュウカラが戻ってきた様である。

25 年は 29 種、26 年は 23 種 27 年も 23 種が確認出来た。

探鳥会 尖石縄文考古館・竜神池周辺の夏鳥

早朝より尖石縄文考古館の駐車場からスタートして青少年自然の森への林縁部を進み史跡公園の草地を廻り、堰沿いを竜神池へ進み池東側の木道散策路内に行き、戻って来るコースで行った、そこではオオルリ・ノジコ・アオジ・クロツグミ・サンショウクイ・イカル・コサメビタキ、コムクドリ・キビタキなどがさえざり姿も良く見えた、また北へ帰る準備中の冬鳥はマガモ・シメ・カシラダカ・ツグミがいた。

25 年は 35 種、26 年は 36 種、27 年は 34 種が確認ができた。

探鳥会 神長官守矢史料館周辺の冬鳥

神長官守矢史料館周辺の農耕地、人家廻り、林縁部で寒い冬を過ごす冬鳥を観察した、野鳥が減った情報の多く聞かれる最近、冬をこの地で過ごすはずの冬鳥ツグミ・カシラダカ・ジョウビタキ・ベニマシコ・シメ・シロハラなどは例年に比べても少ない数である、亜高山で夏を過ぎたルリビタキ・カヤクグリ・ウソは確認出来なかった、留鳥ではヒヨドリ・ホオジロ・カワラヒワ・シジュウカラはあちこちで見たが、アオジ・モズ・ヤマガラ・アカゲラなど常連の姿は減少であった。猛禽はオオタカ・ノスリが雄姿を見せる年もあった。

25 年は 23 種、26 年は 20 種、27 年は 16 種と減少が見えた。

探鳥会 上川、諏訪湖周辺の冬の水鳥たち

諏訪市すわっこランドや岡谷市横河川河口、上川左岸コハクチョウ飛来地へ集合し水辺の鳥観察を行った、カモもヒドリガモ・マガモ・カルガモ・オナガガモ・ホシハジロ・キンクロハジロ・ミコアイサ・カワアイサの種と雌雄の識別を学び観察した、諏訪湖周にはカモ類の他カイツブリ・カンムリカイツブリ・ハジロカイツブリやカワウ・アオサギ・ダイサギ・オオバンなど多くの水辺の冬鳥がいた、上川河川敷の立木には 20 羽のカワウが止まり定住していた。

25 年は 28 種が、26 年は 26 種、27 年は 28 種確認できた。

3、まとめ

スポットセンサスでは場所、季節で優占度が違っていた、博物館周辺ではスズメが秋冬高くなり、ヒヨドリ・ムクドリが続いた。

尖石縄文考古館周辺では目立つものは無い分種類数は多く、マガモ・カルガモ・ヒヨドリ・カワラヒワ・シジュウカラと続いた。

神長官周辺はヒヨドリ・ムクドリ・カワラヒワ・ツグミと続いたが、ムクドリは 6 月一回だけの繁殖後の群れに当たった為である。

感覚でない実数のデータが調査により作成できたので、今後の調査で比較検討が出来る、さらに場所などを替え実績が蓄積される事が一つの目標点である。

平成 25 年度 鳥の種と数の調査 記録用紙

集計

調査コース名： 総合博物館周辺(下古田・柳川) 調査者 市民研究員野鳥グループ

調査日時	2013・5・18		2013・7・7		2013・11・17		2014・1・12		年間総合計		
9時より11時30分	①・②回目 総合計		③・④回目 総合計		⑤・⑥回目 総合計		⑦・⑧回目 総合計		MAX	優占度	叢合計
種名	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	優占度	叢合計
キジ	6	10							6	0.8%	10
カルガモ	3	3							3	0.4%	3
カワアイサ							1	1	1	0.1%	1
キジバト			2	2			2	3	4	0.5%	5
アオサギ	3	3	1	1					4	0.5%	4
カッコウ			3	7					3	0.4%	7
トビ	1	1			3	3			4	0.5%	4
ノスリ	1	1	3	4					4	0.5%	5
コゲラ	1	1							1	0.1%	1
チョウゲンボウ	1	1							1	0.1%	1
モズ	14	34	14	20	7	10	4	7	39	4.9%	71
ハシボソガラス	3	5	2	3	7	13	2	3	14	1.8%	24
ハシブトガラス	4	6	8	14	1	5	5	6	18	2.3%	31
カケス					1	1	1	4	2	0.3%	5
シジュウカラ	3	7	2	2	5	5	7	16	17	2.1%	30
ツバメ	20	41	21	46					41	5.2%	87
アカゲラ			1	1			1	1	2	0.3%	2
ヒヨドリ	11	25	21	58	21	43	16	26	69	8.7%	152
ウグイス	3	9	10	26					13	1.6%	35
オオヨシキリ	24	84	17	58					41	5.2%	142
ムクドリ	4	8	1	1	1	2	52	56	58	7.3%	67
コムクドリ	13	22	7	14					20	2.5%	36
カワガラス			1	1	5	18	9	23	15	1.9%	42
キビタキ	2	2							2	0.3%	2
ジョウビタキ					1	1	1	1	2	0.3%	2
ツグミ					2	2	1	1	3	0.4%	3
スズメ	1	1			213	378	66	124	280	35.3%	503
キセキレイ	7	9	1	1	1	2	2	2	11	1.4%	14
ハクセキレイ	4	6		1	4	5	1	1	9	1.1%	13
セグロセキレイ	2	3			3	3	6	18	11	1.4%	24
カワラヒワ	2	2	2	2	20	23	10	10	34	4.3%	37
イカル							1	1	1	0.1%	1
ホオジロ					1	1	33	86	34	4.3%	87
カシラダカ							26	86	26	3.3%	86
合計									793	99.9%	

平成 26 年鳥の種と数の調査 記録用紙

集計

調査コース名： 尖石縄文考古館周辺・竜神池 調査者 市民研究員野鳥グループ

調査日時：	2014・5・6		2014・6・7		2014・11・24		2015・1・10		年間総合計		
6時より9時、①～④ 8時30分より11時 30分	①・②回目 総合計		③・④回目 総合計		⑤・⑥回目 総合計		⑦・⑧回目 総合計				
種名	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	優占度	叢合計
マガモ	6	20	3	15	34	170			43	7.3%	205
カルガモ	17	49	9	30	12	60			38	6.5%	139
コガモ	2	10			17	85			19	3.2%	95
カイツブリ	3	9	1	3					4	0.7%	12
キジバト	5	14	3	8					8	1.4%	22
アオサギ	5	5							5	0.9%	5
オオバン					2	8			2	0.3%	8
ホトトギス			1	1					1	0.2%	1
カッコウ			6	16					6	1.0%	16
アマツバメ			3	3					3	0.5%	3
トビ	1	1							1	0.2%	1
コゲラ	6	8	3	5	1	1			10	1.7%	14
アカゲラ	8	19	4	4	2	3	11	16	25	4.3%	42
アオゲラ	9	19	1	1			1	3	11	1.9%	23
サンショウクイ	9	15	7	10					16	2.7%	25
モズ							1	5	1	0.2%	5
カケス					6	10	14	20	20	3.4%	30
ハシボソガラス	9	25							9	1.5%	25
ハシブトガラス	5	7	1	1	2	7			8	1.4%	15
ヤマガラ					1	4	1	1	2	0.3%	5
ヒガラ							2	2	2	0.3%	2
シジュウカラ	6	9	6	14	4	7	11	11	27	4.6%	41
イワツバメ			4	4					4	0.7%	4
ツバメ			3	5					3	0.5%	5
ヒヨドリ	14	33	12	19	2	2	3	6	31	5.3%	60
ウグイス	12	40	8	22					20	3.4%	62
エナガ	1	5			3	3	15	62	19	3.2%	70
センダイムシクイ	1	1							1	0.2%	1
メジロ	8	22	3	6					11	1.9%	28
オオヨシキリ			1	5					1	0.2%	5
ゴジュウカラ	4	5	1	2	2	3	4	7	11	1.9%	17
コムクドリ	22	48	4	7					26	4.4%	55
クロツグミ	7	11	4	5					11	1.9%	16
アカハラ	2	6	2	2					4	0.7%	8
ツグミ					1	1			1	0.2%	1
ジョウビタキ					1	2			1	0.2%	2
コサメビタキ	3	3							3	0.5%	3
キビタキ	7	13	13	40					20	3.4%	53
オオルリ	1	3							1	0.2%	3
スズメ	4	12			1	1			5	0.9%	13
キセキレイ	2	4	5	16	1	1			8	1.4%	21
セグロセキレイ	3	3			3	5	3	3	9	1.5%	11
カワラヒワ	19	59	10	26	2	5			31	5.3%	90
マヒワ					10	25	20	20	30	5.1%	45
ベニマシコ					8	14			8	1.4%	14
ウソ					6	6			6	1.0%	6
イカル	15	33	5	9	4	4			24	4.1%	46
ホオジロ	6	14	1	5					7	1.2%	19
カシラダカ					3	4	4	4	7	1.2%	8
ノジコ	1	2	2	6					3	0.5%	8
アオジ	13	49	8	28					21	3.6%	77

小計									588	100.0%	1485
----	--	--	--	--	--	--	--	--	-----	--------	------

平成 27 年度鳥の種と数の調査 記録用紙 集計

調査コース名： 神長官守矢史料館周辺 調査者 市民研究員野鳥グループ

調査 日時：	2015・5・6		2015・6・6		2015・11・23		2016・1・11		年 間 総 合 計		
	5：50～8：23		6：00～8：37		8：00～10：32		8：30～11：10				
6時より9時、① ～④8時30分よ り11時30分	①・②回目 総 合 計		③・④回目 総 合 計		⑤・⑥回目 総 合 計		⑦・⑧回目 総 合 計				
種 名	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	総合計	MAX	優占度	総合計
キジ	11	25	9	3			1	1	21	2.9%	29
キジバト	3	3	7	13	8	10			18	2.5%	26
アオバト			2	2					2	0.3%	2
カッコウ			4	9					4	0.5%	9
アマツバメ	4	4							4	0.5%	4
トビ	1	1	4	6					5	0.7%	7
ノスリ							1	1	1	0.1%	1
コゲラ	2	2			1	1			3	0.4%	3
アカゲラ	3	5	1	2	1	2			5	0.7%	9
アオゲラ	4	10	1	3	1	1			6	0.8%	14
サンショウクイ	1	2	4	5					5	0.7%	7
モズ	6	19	1	1	1	1	2	2	10	1.4%	23
カケス	27	33					1	1	28	3.8%	34
ハシボソガラス	8	12	1	4	1	3	8	13	18	2.5%	32
ハシブトガラス	7	11	10	13	8	21	1	5	26	3.6%	50
ヒガラ	1	2							1	0.1%	2
シジュウカラ	7	12	7	16	3	5			17	2.3%	33
ツバメ	1	2	26	70					27	3.7%	72
ヒヨドリ	23	59	15	45	54	195	49	154	141	19.3%	453
エナガ	5	11					10	40	15	2.0%	51
ゴジュウカラ	1	1					3	6	4	0.5%	7
ムクドリ			121	391					121	16.5%	391
コムクドリ	2	3	3	7					5	0.7%	10
シロハラ							6	11	6	0.8%	11
アカハラ	1	1							1	0.1%	1
ツグミ					11	30	56	193	67	9.2%	223
ジョウビタキ					1	2	2	4	3	0.4%	6
キビタキ	4	6	2	9					6	0.8%	15
オオルリ	2	4							2	0.3%	4
スズメ			10	25					10	1.4%	25
キセキレイ	3	5	7	10					10	1.4%	15
ハクセキレイ					1	3			1	0.1%	3
セグロセキレイ					1	1	2	3	3	0.4%	4
カワラヒワ	7	15	6	16	35	142	24	65	72	9.8%	238
ベニマシコ							1	1	1	0.1%	1
シメ					3	8	6	10	9	1.2%	18
イカル	13	23			4	4			17	2.3%	27
ホオジロ	8	21	5	15	5	10			18	2.5%	46
カシラダカ							12	12	12	1.6%	12
カヤクグリ					1	1			1	0.1%	1
ガビチョウ			3	4	3	3			6	0.8%	7
小計	155		249		143		185		732		1926